

## 令和元年度 第3回 木材需給会議 資料の概要

### 1. 一般経済の動向 (資料1)

2019年度の実質GDP成長率は、前年比+1.0%と5年連続でプラスを達成すると予想。年度末にかけては、各国の経済対策効果やICT関連需要の持ち直しを受けて世界経済も徐々に持ち直し、輸出は増加基調に転じると予想。

景気の最大の下振れリスクは、引き続き海外経済の動向であり、中でも米中貿易摩擦が深刻化することである。足元では対立激化は回避され、両国関係が改善するとの期待感が高まっているが、対中制裁関税第4弾の残り部分が発動されるなど対立が再び深刻化し、世界経済悪化、世界的な株安、リスク回避の円高につながる可能性は残る。

2020年度の実質GDP成長率は前年比+0.6%に鈍化すると見込む。2019年度の経済対策によって災害からの復旧・復興や国土強靱化の推進により公共事業が上積みされる一方、東京オリンピック・パラリンピックの押し上げ効果の剥落などで年度後半に景気が一時的に停滞する可能性があり、伸び率は低めとなる。

2021年度の実質GDP成長率は前年比+0.7%に持ち直す見込みである。5Gの本格的普及が進むことや、東京オリンピック・パラリンピックの開催をきっかけとしてインバウンド需要の増加に弾みがつくことが、成長率の押し上げに寄与する。

### 2. 住宅着工見通し (資料2)

2019年1-10月の住宅着工戸数の累計は、前年同期比-2.6%の75.9万戸と前年より減少。

利用関係別の内訳をみると、持家住宅、分譲住宅一戸建及び分譲マンション(以下「持家系」という。)の着工戸数が、それぞれ前年同期より増加しており堅調だが、一方、貸家は前年同期比-13.6%と二桁の減少率で、持家系の増加よりも貸家の減少が大きい。

持家系の住宅着工戸数の増加は、国内の景気回復とそれに伴う人手不足や働き方改革を背景とした給与所得の増加、住宅ローンの低金利の影響等が考えられる。

一方、貸家は減少傾向が続いている。この要因として、2015年1月からの相続税制改正に対する税制対策への需要が一巡したことや、貸家住宅の建設に対する金融機関の貸出姿勢の厳格化が続いていること等があげられる。

2019年7-9月期四半期GDP一次速報に基づくシンクタンク(13機関)の予測によれば、2019年度の住宅着工戸数は平均89.2万戸、2020年度は同86.4万戸となった。これは米中の経済摩擦が激化したこと等による世界経済の減速が国内経済に影響を及ぼし、さらには住宅着工にも反映されると予想しているためとみられる。このため海外経済の動向がさらに注目される。

### 3. 住宅業界の動向 (資料3)

住団連が実施の住宅会社の「支店、営業所の営業責任者に対する住宅業況調査」の結果は、戸建注文住宅の2019年7月-9月期の受注実績は、4月-6月期に対しプラス2ポイント、金額でもプラス2ポイントと前期比ではプラスになったものの、前期の落ち込みが大きく依然低調であり、反動減による落ち込みが継続する結果となった。

また、住団連の「低層住宅に関する経営者の景況感調査」では、対前年比の総受注戸数は、マイナス80ポイント、金額でもマイナス50ポイントと前回に続き大きくマイナスであった。

これに対するコメントとしては、「戸建ての集客減が棟数、金額とも影響している」、「消費税増税の反動減の影響もあり前年比マイナスとなった」等、前年同時期の増税前の回復傾向に対し、今回調査では、回答10社中7社が「10%程度・10%以上悪い」と回答とのこと。

弊社の戸建住宅の受注も棟数では昨年度ほぼ同等、金額ではマイナスとやや停滞がみられ、住宅ローン金利は依然低い状況にあるものの受注環境は厳しい状況は変わらない模様。

### 4. 木材業界の動向 (資料4)

仕入れ量、販売量について、8月は、流通部門、製造部門ともに前月より減少、9月は、流通部門、製

造部門共に増加。10月は、製造部門で仕入れ量が増加したほかは変わらず。11月は、仕入れ量は流通部門、製造部門ともに増加、販売量は流通部門で増加した。

3ヶ月後の相場予想に関しては、米材は、製材部門、流通部門ともに弱含みから、10月には流通部門は持ち合い予想となるなどやや持ち直すも、11月には再び弱含みの予想。北洋材（欧州材含む）は、流通部門で持ち合い、製造部門は弱含みからやや弱含み。国産材は、流通部門は保ち合い、製造部門は持ち合いから10月には弱含むも11月には持ち合いとなる予想。建材は、保ち合いで推移すると予想している。

10月のプレカットは、非住宅・大型物件を含めピークを迎え、順調に推移しているが、11月は米材の入荷状況について今後注視する必要があるとのコメントがあった。

## 5. 木質バイオマスの動向（資料5）

本年度第2四半期（7-9月）の燃料調達量は、未利用木質が約40.8万絶乾トン（前期比115%）と順調な調達。一般木質は33.5万絶乾トン（前期比112%）で、そのうち海外チップ・ペレットが前期比25%以上の伸びを見せている。農作物残さは、前期比149%と大幅に増加したが、一般木質を扱う一部の発電所でPKSの調達量を倍増させたことが主な要因。

燃料調達量の割合を見ると、未利用木質調達量が44%、一般木質等が52%と今期は一般木質等が逆転した。一般木質等のうち国内調達の燃料は19%を占めている。

燃料材価格は、未利用木質は前季に引き続き上昇基調で21,173円/絶乾トンと高い水準を維持。一方、一般木質は前季からの下落傾向は変わらず11,941円/絶乾トンとなった。

未利用木質バイオマス発電所の導入容量は前期からほぼ横ばいで、認定を受けたもののうち容量ベースで81%相当が既に導入済み。令和2年度に運転開始を予定している発電所の立地は近畿以東に多く、中国・九州は一段落した。これらの発電所のうち使用燃料の内訳が明らかにされているものを見る限りでは、海外燃料がメインとなっており、未利用材の計画は全体の2割以下に落ち着いている。

## 6. 木材輸出の動向（資料6）

本年1月から10月までの輸出数量は、丸太は91万2千 $\text{m}^3$ で、夏以降の伸び悩みのため前年比5.0%の減となった。製材は12万4千 $\text{m}^3$ で2.2%の増、合板は9万8千 $\text{m}^3$ で、丸太と同様に伸び悩み5.4%の減となった。

輸出総額は285億円で前年比0.7%の減となった。国別には、中国は前年比0.2%増と夏以降の伸び悩みはあるものの、輸出額130億円で全体の46%を占める。第2位のフィリピンは1.6%減で63億円、第3位の韓国は落ち込みが大きく10.2%減で24億円、第4位の米国は引き続き順調で10.2%増の22億円となっている。

中国に関しては、欧州における虫害木の大量流入の影響がそれなりの大きさで出ているようであり、また、中国経済の全般的減速感や米中貿易摩擦の推移に今後とも左右される面が出てくるものと考えられる。

韓国に関しては、不動産投資の抑制策が続いていることから、内装工事や家具の需要が減少している状況にあるようである。

## 7. 紙パルプ産業の需給動向（資料7）

紙・板紙の国内出荷は、紙、板紙共に引き続き減少となった。通販向け需要の前年比増加幅の縮小や電気器具等の梱包材需要の伸び悩みが影響した。輸出でも紙、板紙共に大幅減となったが、特に板紙は中国の景気低迷の影響が大きい。その結果、生産も紙・板紙共に減少となった。

パルプの生産は紙の生産減の影響を受け減少。

古紙の輸出は、東南アジア向けが増加しているものの、中国の景気低迷と古紙輸入ライセンス発給減による大幅減を補えず減少。

パルプ材集荷は、国産では針葉樹が天候不順の影響を受け減少となったが、工場の設備トラブルや定期点検の延長等も需要減の一因。広葉樹では前年比増となったが、素材生産業者の針葉樹伐採へのシフトは続いており低水準の集荷が続いている。

輸入では、針葉樹で前述のように国内需要が減少する中、国産材の優先集荷の影響を受けて減少、広葉樹では比較的安価なベトナム材の集荷増が寄与し増加となった。

## 8. 国産材に関する動向（資料8）

11月上旬の森連共販所平均価格は、スギ柱用材が12,100円（前月比200円/m<sup>3</sup>高）、同中目材は12,000円（前月比100円/m<sup>3</sup>安）。ヒノキ柱用材が16,900円（前月比900円/m<sup>3</sup>高）、同中目材は16,300円（前月比700円/m<sup>3</sup>高）となった。

好調な出材を維持している一方で、豪雨災害の影響によりこれからの出材に不安視する声が多い。

スギ原木の出材は好調を維持。ヒノキ価格は続伸中。

製品市況については一部号災害の影響により需要が高まったが、総じて製品の不足感はない。プレカット工場の生産は依然高い稼働率で維持。

災害による影響が少なかった地域においては、価格上昇により出材意欲の向上につながることを期待。

## 9. 国産材丸太（製材用）の需要動向（資料10 - P1）

2019年第3四半期の実績は、東日本の台風・豪雨災害等の影響はあるものの、西日本は順調な出材で国産材の入荷に大きな変動はなかった。10月の消費増税も、市場が織り込み済みの対応をしておき、本年年初から緩やかな好調が継続。前年同期比では増加した。

原木の需要については、木質バイオマス需要が引き続き増加している一方、中国向けの原木輸出の見通しが減少する方向へ動いているとの情報があり、製材用材への供給について多少緩むのではないかとの見方あり。

第4四半期の見込みは、原木供給が大幅に変動する要素は少なく、安定した供給が継続されると期待。地方でも住宅を含めた需要は当面安定しており、プレカット工場の受注も順調に推移するとの見方が多い。製品価格の上昇は期待できないが、需要量はそれなりに確保できると予測。前年同期並みの見込み。

2020年第1四半期の見通しは、安定した原木供給を背景に、昨年実績+ $\alpha$ の需要を想定。前年同期比で並みの見通し。

第2四半期の見通しは、原木の供給が安定していれば、例年並みの需要は期待できるが、合板用、木質バイオマス利用等の需要との品質、価格面で競合する中で数字になり、前年同期並みの見通し。

原木供給は極めて安定しており、合板、バイオマス需要等への対応もそれなりにできているものの、中小製材工場の仕入れ先である原木市場への出材は必ずしも十分とはいえない状況。また、将来的な国産材生産可能性についての情報が不足しているとの意見もある。

## 10. 国産材丸太（合板用）の需要動向（資料10 - P1）

2019年第3四半期の実績は、ほぼ堅調な住宅着工（特に構造用合板の需要増大）、輸入合板の急速な減少傾向、フロア台板等国産合板の需要増大、型枠用合板、中層大規模建築用の需要増大傾向、南洋材合板等に関する違法伐採等の環境問題、サバ州の丸太輸出禁止の継続、合板工場の新設、設備投資（三重、大分、山梨工場等）による生産能力、効率アップ等により、前年同期比で増加となった。

第4四半期は、前期と同様の要因により、前年同期比で増加の見込み。

2020年第1四半期以降においても、同様の要因に加え新設工場の本格稼働等により、前年同期比で増加の見通し。

国内合板工場ではフル稼働が続くが、働き方改革のマイナス影響は大きい。その他、住宅・非住宅建築物の動向、トラック輸送の確保等に注視。

## 11. 米材丸太の需要動向（資料10 - P2）

2019年第3四半期の実績は、10月の消費増税後の需要落ち込みを見越して、低調な需給推移。価格的にも産地・国内相場共に下落が顕著で、前年同期比で減少した。

第4四半期は、消費増税後の需要減が深刻で、本来は需要期であるが、新設住宅着工需要も弱く、近年に無く需要は減退しており、前年同期比で大幅減少が続く見込み。

2020年第1四半期は、国内は冬場の不需要期に入り、昨年後半からの需要減退も続く予測。また、カナダ大手が12月から全面的な伐採停止を発表しており、産地からの供給も大幅に減る見込みで港頭在庫も底払いとなると予想。前年同期比で15%近く減少の見通し。

第2四半期は、昨年の通年で水準並みに需給は回復するものの、2020年の住宅着工需要は減少する見込みであり、あまり多き垂需要回復は望めないと予測。前年同期比で減少の見通し。

## 12. 米材製材品の需要動向 (資料10 - P2)

2019年第3四半期の実績は、現地ストライキの影響で在来製品の入荷が減少、出荷も減少したため前年同期比で10%程度減少した。

第4四半期は、年末に向けて荷動きがよくなると予測するが、前年同期比で減少の見込み。台風被害の補修で、構造材よりは羽柄、垂木等が動く。

2020年第1四半期は、長期化した現地工場のストライキの影響で入荷は減少。年明けに解決したとしても2月からの入荷か。年度末に向けて大手は年間予定数量や年度末在庫の調整局面に入るため前期より減少するが、昨年のこの時期はディメンションの入荷が激減していたため、前年同期比では増加の見通し。

第2四半期は、現地ストライキの解消等があれば荷動きは良くなる。また、7～8月のオリンピック開催期間は首都圏交通規制により港からの出荷が停滞するため、前倒しの資材調達となると予測するが、前年同期比で減少の見通し。

## 13. 北洋材丸太の需要動向 (資料10 - P4)

2019年第3四半期の実績は、ロシアの丸太輸出関税の引上げにより入荷の大幅減予想の中、前年同期比で3%減の28千<sup>m</sup>と思いのほか減少幅が緩和された。

第4四半期は、輸出税問題に加えて季節的に入荷が減少する傾向があり、前年同期比で20%減の20千<sup>m</sup>の見込み。

2020年第1四半期は、冬切材の入荷も期待されることから、前年同期並みの24千<sup>m</sup>の見通し。

第2四半期は、季節的に入荷が増加すると予想し、前年同期並みの見通し。

## 14. ニュージーランド・チリ材 需要動向 (資料10 - P5)

### (1) ニュージーランド材丸太 需要について

2019年第3四半期の実績は、米中問題の影響で輸出梱包材は荷動きが停滞しており、内地挽き製材工場の大半は10～15%減の操業であったが、大手工場が減産しなかったことが影響し、前年同期比で増加。

第4四半期は、輸出需要、国内需要共に高需要期に入る時期であるが、輸出需要は約1年にわたり対前年比マイナス成長となっており、高揚感はない。国内の年末需要を期待して、前年同期並みと見込む。

2020年第1四半期は、3月末の決算を控えた最終需要家(大手企業)からの梱包・パレット需要が伸びる繁忙期。年明けで稼働日数も少ないが、前期並みの需要は維持されると予測。前年同期比では増加の見通し。

第2四半期は、最終需要家が決算後の低需要期に入るため、例年どおり原木需要は下落すると予測。前年同期比で減少の見通し。

### (2) ニュージーランド・チリ材製材品 需要について

2019年第3四半期の実績は、第2四半期の入荷量が激増したため、チリ材の在庫量は3ヶ月を超える高レベルとなった。需要は、低需要期であることに加え、輸出が低調で梱包需要が伸びなかったことから前年同期比で減少した。

第4四半期は、輸出、国内共高需要期に入る時期だが、輸出不振による梱包需要減に歯止めがかからない状況。チリ材は在庫調整目的の船積み延期により入荷量も少なくなることから、前年同期比で減少の見込み。

2020年第1四半期は、3月末の決算を控えた最終需要家(大手企業)からの梱包・パレット需要が伸びる繁忙期。チリ材は、チリ暴動の影響が懸念されるも一定の入荷はある。また、米中貿易問題等の影響を受け、販売量を確保したいチリ大手シッパーが値下げしたことから、市場に先安感が広がっており、在庫を多く抱えた問屋の廉価販売も出荷増の要因となり、前期より需要が伸びると予測する。前年同期比では減少の見通し。

第2四半期は、決算後の低需要期に入るが、在庫は潤沢であるため、価格優位性を背景に前期並みも

しくは若干上回る需要が維持されると予測するが、前年同期比では減少の見通し。

## 15. 米材、欧州材、北洋材、輸入集成材の供給動向

### (1) 米材丸太の供給について（資料10 - P2）

2019年第3四半期の実績は、国内挽工場にそれなりの数量が入荷したものの、前年同期比では減少。

第4四半期は、国内挽工場の入荷減、カナダの夏場の伐採停止により入荷数量は少ない見込み。

2020年第1四半期は、カナダにおいて少なくとも年内伐採停止のため、合板メーカー向けを中心に入荷が落ち込む見通し。

第2四半期は、前期の入荷の落ち込みの調整でそれなりの数量が入荷する見通し。

### (2) 米材製材品供給について（資料10 - P2）

2019年第3四半期の実績は、SPFや米マツが安定入荷した反面、カナダ製材会社のストライキにより特に米ツガが減少傾向。前期より増加したものの、前年同期比では減少。

第4四半期は、SPFについては価格、入荷等も安定。米マツは高値維持のため減少、米ツガは製材会社のストライキの影響で引き続き入荷は少量と予想。前年同期比で減少の見込み。

2020年第1四半期は、米マツ、米ツガの入荷が伸びず、引き続き入荷は抑えられると予想するが、前年同期は米ツガ価格の高騰等で取引が特に少なかったため、前年同期比では増加の見通し。

第2四半期は、引き続きBC州のコスト高や製材会社のストライキは回復すると見通すが、生産量が元に戻るには時間を要すると考えることから、需要期突入も大きい入荷増は予測できない。前年同期比並みの見通し。

### (3) 欧州材製材品供給について（資料10 - P2）

2019年第3四半期の実績は、世界市況が低迷、日本も相場が下落し始め特にラミナ入荷減。羽柄関係の入荷が多く前年同期比で増加した。

第4四半期は、ラミナ、羽柄共に相場下落で入荷が減少し、前年同期並みの見込み。

2020年第1四半期は、ラミナの入荷は底となる。羽柄は減少途中で、前年同期比で減少の見込み。

第2四半期は、需要期に入り、特に北海道向けの入荷が増加、ラミナの数量も増加すると予測するが、前年同期比で減少の見通し。

### (4) 北洋材丸太供給について（資料10 - P4）

2019年第3四半期の実績は、ロシアの輸出関税による影響により前年同期比で減少した。

第4四半期は、ロシアの輸出関税の影響と第4四半期は材が出づらい状況。前年同期並み見込み。

2020年第1四半期は、シベリア材が出てくる時期のため、前期並みの見通し。関税が40%になっても一部のサプライヤーは特恵なしで輸出していたが、来年は60%となるため、その数量も減少すると予測。前年同期比では減少の見通し。

第2四半期は、極東材が出てくる時期のため前期比で増加するが、前年同期比では減少の見通し。

### (5) 北洋材製材品供給について（資料10 - P4）

2019年第3四半期の実績は、高値維持も需要が供給を上回った。前年同期比で増加した。

第4四半期は、引き続き需要が旺盛のため、前年同期比で増加の見込み。

2020年第1四半期は、引き続き需要が継続すると予測。端境期の状況次第だが、例年どおりの冬季突入しており、前年同期比で増加の見通し。

第2四半期は、引き続き需要が継続すると予測し、前年同期並みの見通し。

### (6) 輸入構造用集成材供給について（資料10 - P7）

2019年第3四半期の実績は、昨年過剰在庫で価格下落傾向であったものが、買い控えの後在庫調整が取り、年明けより回復し正常なマーケットに戻ってきたため、入荷量が回復したことから前年同期比で増加となった。

第4四半期は、前年同期より在庫調整が取れて入荷が増加するため、前年同期比で増加の見通し。  
2020年第1四半期は、季節的に不需要期であり、年末年始で若干入荷が抑えられる。前年同期比で微増の見通し。

第2四半期は、市況も回復、生産も安定し入荷も順調と予想し、前年同期比並みの見通し。

## 16. ニュージーランド・チリ材の供給動向（資料10 - P5）

### (1) ニュージーランド・チリ材丸太 供給について

2019年第3四半期の実績は、第2四半期入荷増の調整が入り、やや少ない水準で入荷。前年同期比でも減少した。

第4四半期は、前期並みの入荷を予想。前年同期比では減少の見込み。2019年の入荷量は前年より減少となるが、米中の貿易問題のあおりを受け、梱包材等が国産材にシフトしたため。

2020年第1四半期は、年間入荷量を360千 $m^3$ と予想、産地の季節的要因も無いことから四半期平均の90千 $m^3$ と見通す。前年同期比では増加。

2020年第2四半期は、第1四半期同様の見通し。前年同期比では減少。

### (2) ニュージーランド・チリ材製材品 供給について

2019年第3四半期の実績は、チリ材の前半の供給ラッシュにて流通在庫が大幅増となり、各社買い控えた結果、前期比、前年同期比共大幅に減少となった。

第4四半期は、梱包市況低迷が長引いていることでチリからのバルク船の間隔が45日から60日に伸びており、その結果、第3四半期並みの供給となる見込み。前年同期比では減少。

2020年第1四半期は、2017～2018年のような梱包市況活況の状況は見込めず、2020年の全体数量は本年度並み（400千 $m^3$ 程度）と予想。2019年前半は、チリシッパーに押しつけられた形で入荷増となったが、2020年は各問屋とも買う余裕が無く、市況回復の遅れもあり前半はスローペースと予想。前年同期比減少の見通し。

第2四半期も第1四半期と同様に前半はスローペースと予想するが、徐々に在庫調整が付き第1四半期より入荷増となる見通し。前年同期比では減少。

## 17. 南洋材丸太（製材用）、南洋材製材品の需要動向（資料10 - P3）

### (1) 南洋材丸太（製材用）の需要について

2019年第3四半期の実績は、全般に荷動きは低調、輸出用梱包材に回復の兆しが見られず、前年同期比で大幅減となった。

第4四半期は、丸太の需給バランスは安定しているが、輸出関係全般の回復は見込めず、前年同期比で減少の見込み。

2020年第1四半期は、年度末にかけて需要はあるものの、需要先がある程度限られているため実需減と予測。前年同期比で減少の見通し。

第2四半期は、新年度に入るが輸出用材の需要状況は不透明。前年同期比で増加の見通し。

米中貿易摩擦によるアジア圏での需要減少が大きいと思われる。

### (2) 南洋材製材品の需要について

2019年第3四半期の実績は、学校関係の夏の改修工事は低調であったが、商業施設などの内装工事関係が堅調で、前年同期比並みとなった。

第4四半期は、増税後も需要に大きな変化は無く安定しており、年末年始は公共施設の改修工事などの需要があることから、前年同期比若干増の見込み。

2020年第1四半期は、東日本を中心とした台風被害の復旧需要が段階的に出始めると予想。また、年度末で完工物件も集中し需要があると予測し、前年同期比若干増の見通し。

第2四半期は、新年度に入り、民間を中心に物件需要が抑えられ、実需減で推移すると予想。前年同期比並の見通し。

## 18. 南洋材丸太(合板用)の需要動向 (資料10 - P3)

2019年第3四半期の実績は、針葉樹合板へのシフトの進行、産地価格の高止まり、産地のインド、中国市場等へのシフト、産地の違法伐採対策等環境問題の影響増大、サバ州の丸太輸出禁止の継続、インドネシア、サバ州からの単板輸入の増加、設備投資による国産材針葉樹合板の生産能力のアップ等により、前期比で減少したが、2018年の第3四半期は、サバ州の丸太輸出禁止の影響が大きく、大幅に需要が減少していた時期であることから、前年同期比では増加となった。

第4四半期は、前期要因が加速化し、特に、サバ州の丸太輸出禁止の影響により、前年同期比で減少の見込み。なお、パプアニューギニアからの丸太輸入は安定確保の見通し。

2020年第1四半期以降は、前期と同様の要因。前年同期比で減少の見通し。

## 19. 国産、輸入合板の需要動向 (資料10 - P6)

### (1) 国内製造合板の需要について

2019年第3四半期の実績は、働き方改革等への対応から、土曜日、日曜日の完全停止により生産量は伸びなかったが、山梨、大分の新工場の稼働、生産は順調であった。消費増税の駆け込み需要もあり、予想を上回る需要となり、前年同期比で増加となった。

第4四半期は、生産はピークとなるが、出荷はトラック(運転手)の確保難、駆け込み需要の反動減等がマイナスに働く。しかしながら、プレカット工場等の旺盛な需要状況から見て、前年同期比並みと見込む。

2020年第1四半期は、生産は、冬季のため東北地区の工場では乾燥効率低下等の制約あり。需要は、年度内着工を目指す需要や非住宅の木造化の進展も見られ、針葉樹構造用の部位や用途の拡大が続くと予想。前年同期比で増加する見通し。

第2四半期は、生産は、新工場の生産量が増加。既存工場は設備の生産合理化投資に取り組む姿勢が見られる。需要は、新設住宅着工が減少の見込みだが、非住宅において木造化拡大への政策支援等もあり今年以上の進展もみられると予測し、前年同期比並みの見通し。

### (2) 輸入合板の需要について

2019年第3四半期の実績は、ベトナムからの梱包用合板は、中国向け輸出の停滞見通しから減少したままの状態が継続。フロアベースや造作材料の他材料への転換、塗装型枠用合板の引き合い低調などの背景から、近年にないきわめて低水準の需要であったため、前年同期比で大幅な減少となった。

第4四半期は、輸入元においては、消費増税駆け込み需要等による在庫の回転と価格底入れに伴い新規契約の手当が進んできており供給増加の見込み。需要は、構造用合板の引き合いは比較的強く、前期比で4~5%程度の増加を見込むが、前年同期比では大幅な減少の見込み。

2020年第1四半期は、南洋材丸太の規制、国内合板や他材料への転換が大きく進んだことにより、輸入合板の国内での供給・需要の比率は大きく低下した。前年同期比で減少の見通し。

第2四半期は、船舶のSox規制によるコスト高の価格への反映が本格的に進み、シッパー、輸入元、需要家との綱引きが生じる。価格底入れ後の値戻しに加えコストアップ分の受入れがどの程度進むか厳しい交渉となると予想。前期より減少、前年同期比並みの見通し。

## 20. 南洋材、輸入合板の供給動向

### (1) 南洋材丸太の供給について (資料10 - P3)

2019年第3四半期の実績は、サラワクは割高感があり配船見送り、パプアニューギニアは配船の谷間に差し掛かったことにより、前年同期比で大幅に減少した。

第4四半期も、前期同様低水準の入荷となる見込み。合板メーカーの在庫が十分であること、製材用市場も当用買いに徹していることから、前年同期比で大幅に減少の見込み。

2020年第1四半期は、需要動向に見合った数量が入荷すると予想。2020年の年間入荷見込量(130千m<sup>3</sup>)の四半期平均を少し下回り、前年同期比でも減少の見通し。

第2四半期は、第1四半期と同様の入荷と予想。前年同期比で減少の見通し。

パプアニューギニアが原木輸出禁止を公表しているが、国内加工のインフラが整っておらず、実態

は難しいとされている。今後の公式発表に注目。

## **(2) 南洋材製材品 供給について (資料10 - P3)**

2019年第3四半期の実績は、フリー板の入荷も安定しており、第2四半期並みの入荷があった。前年同期比では増加した。

第4四半期は、フリー板は好調であるが、製材は昨年比10%以上減少するため、前期より少し減少、前年同期比でも減少の見込み。

2020年第1四半期は、現地原木価格の上昇と日本国内の需要減により製材入荷量は減少が避けられない。スキッド、トラックボディなど特殊用途向けしか残らないと予想。一方、フリー板は安定した需要をつかみ今後の供給量も安定している。前年同期比並みの見通し。

第2四半期は、第1四半期雨季の反動で増加するも、製材数量が減っているため天候の影響は限定的であり、前期比で若干増加、前年同期比では減少の見通し。

## **(3) 輸入合板の供給について (資料10 - P6)**

2019年第2四半期の実績は、市場低迷の影響から12mm系合板を中心としたマレーシア合板の入荷減、米中貿易摩擦の影響により中国向けの輸出梱包用合板需要が低迷し、梱包用合板中心のベトナムの入荷が大幅に減少しており、前年同期比で減少となった。

第4四半期は、輸出梱包用合板の需要低迷が継続すると予想。前年同期比で減少の見込み。

2020年第1四半期は、旧正月、テトの影響にて中国、ベトナム合板は入荷減。また、関東、関西は未だ倉庫増床状況にて前年同期比レベルまでの入荷量回復は難しい。前年同期比減少の見通し。

第2四半期は、インドネシア、マレーシア合板共に輸入回復傾向になると予想する。前年同期並の見通し。

オリンピック関連商品(雑貨等)の輸入がピークとなり、港湾業務が混乱し今まで以上に輸入業務に支障が出る可能性あり。

## **21. 国内製造合板の供給について (資料10 - P6)**

2019年第3四半期の実績は、ほぼ堅調な住宅着工、国内合板工場のフル稼働、輸入合板の大幅な減少傾向、フロア台板用国産材合板の需要増大見通し、設備投資(大分、山梨等)による国産材合板の生産能力、効率のアップ等により、前年同期より増加した。

第4四半期は、前期要因に加え、型枠用合板の需要の漸増、大分、山梨の新設工場の稼働の本格化により、前年同期比で増加の見込み。

2020年第1四半期以降も、前期と同様の要因により、前年同期比で増加の見通し。

なお、働き方改革(残業規制、年休の取得義務)の影響は大きい。

## **22. 集成材に関する動向及び国内製造構造用集成材の供給動向 (資料10 - P7)**

2019年第3四半期の実績は、前年同期比で1割程度増加した。消費増税の駆け込み需要による増加と考えられる。

第4四半期は、日集協組合員の生産見込みやプレカット工場の稼働率も11月まで受注100%と報じられていることを勘案して、前年同期比で1割程度増加の見込み。

2020年第1四半期以降は、2020年度住宅着工見通し(対前年度97%)を踏まえ推計。前年同期比で減少の見通し。